

精密診断について

(4) 腐朽診断

①腐朽診断の概要

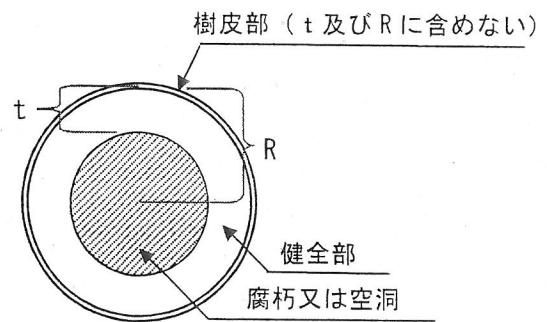
腐朽診断のカルテは、貫入抵抗測定器（商品名：レジストグラフ）、 γ 線樹木腐朽診断器（商品名：ツリーガンマ）、多点式応力波速度測定器（商品名：アーボソニック 3D）、多点式音響波樹木内部診断器（商品名：ドクターウッズ）、幹探査レーダ（商品名：ツリーレーダ）による測定で、それぞれの専用のカルテ様式を使用する。

貫入抵抗測定器、多点式応力波速度測定器、多点式音響波樹木内部診断器、幹探査レーダのカルテ様式については、以下に説明のある東京都様式とする。 γ 線樹木腐朽診断器カルテ様式については、国土交通省国土技術政策総合研究所様式をもとに作成した東京都様式とする。（国土交通省国土技術政策総合研究所様式の使用及び応用については承諾済である。）

②腐朽診断の判定

樹幹内部の腐朽空洞については、腐朽空洞率が断面の 50%を超えた場合には、落枝や倒木となる確率が極めて高くなるため、精密診断などにおいて腐朽空洞率 50%以上の数値が出た場合には、健全度 C：不健全とする。

※ t/R 率が 0.3 以下になると倒木が発生する可能性が高くなる。それを面積換算した場合に腐朽空洞部面積の割合が断面積の約 50%以上となることを意味している。（図Ⅲ-3・1）



図Ⅲ-3・1 健全部と腐朽空洞の割合 (t/R 率)